

鹿島建設株式会社

会社概要

社名： 鹿島建設株式会社(KAJIMA CORPORATION)
本社： 〒107-8388 東京都港区元赤坂 1-3-1
創業： 1840年(天保11年)
設立： 1930年(昭和5年)
従業員： 8,129名(2023年3月末時点)
事業内容： 建設事業、開発事業、
設計・エンジニアリング事業ほか

鹿島グループのエネルギー・環境分野への取組み

鹿島グループは40年以上にわたり、常に新たな環境技術の開発と推進に取り組み、変化を続ける環境ニーズに対応してきました。さらなる環境技術の向上を通じて、風力・バイオマス等の**再生可能エネルギーの利活用**、**水環境・土壌汚染・廃棄物対策**、**自然共生型インフラ構築**などに関して、課題抽出、調査、技術開発を進め、顧客の課題を解決する企画・提案から設計、施工、供用後の管理や運営までのトータルソリューションを提供しています。



メタクレス

～食品廃棄物や生ごみなどを資源にしてバイオガスを発生させ燃料に～

鹿島独自の**高温固定床式メタン発酵システム「メタクレス」**を開発し、これまでに国内15箇所に導入しています。中でも、芋焼酎で有名な霧島酒造では、焼酎製造工程で発生する1日あたり最大1,200tもの焼酎粕をメタクレスを用いてリサイクルしています。回収したバイオガスは自社工場で使用するエネルギーやガス発電を通じて売電にも活用しています。



しかおい水素ファーム（北海道鹿追町）

～乳牛1頭のふん尿でFCV(燃料電池自動車)を約1万km走らせる～

環境省の「地域連携・低炭素水素技術実証事業」に採択された「しかおい水素ファーム」に参画し、**水素のサプライチェーンの構築**に取り組んできました。実証事業が終了した2022年4月からは、エア・ウォーター北海道と共同で合弁会社を設立し、水素供給ビジネスを開始しました。これからも地域とともにカーボンニュートラルに向けた水素社会の構築を目指していきます。



建設重機へのバイオディーゼルの利用

グループ会社の都市環境エンジニアリングと連携し、**バイオディーゼル燃料(B100燃料)**を建設重機の軽油の替わりに使用する取組みを推進しています。バイオディーゼル燃料は、CO₂を吸収した植物性食用油を使用した「廃食用油」から製造されるので、燃焼時CO₂は、大気中CO₂の増加に寄与しない「**カーボンニュートラル**」な燃料です。資源循環型社会と低炭素社会の実現に貢献しています。

